

日本気象学会 2020 年度春季大会

出展・リクルートブース開設・協賛企業・団体等一覧

今大会の開催にあたり、以下の企業・団体からご出展・リクルートブースご開設・ご協賛を頂きました
(2020年3月5日現在；50 音順)．厚く御礼申し上げます．

アカデミスト株式会社*

ANEOS株式会社*+

アプライド株式会社*

英弘精機株式会社*+

株式会社気象工学研究所+

サイバネットシステム株式会社*

三報社印刷株式会社

株式会社ジャムハウス

スカパーJSAT株式会社*

株式会社東京久栄+

東武タワースカイツリー株式会社*

日本海洋事業株式会社+

一般財団法人 日本気象協会+

日本気象株式会社*+

株式会社ニューテック*

株式会社日立パワーソリューションズ*

ビジュアルテクノロジー株式会社*

古野電気株式会社*

株式会社プリード*

(五十音順)

*は会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です．

+は会場内に併設されるリクルートブースを設ける予定の企業・団体です．

2020年の春季大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により参加者の安全の確保が難しいと判断し、現地での会場開催は行わず、予稿集の発行により大会開催とすることにいたしました。現地での大会開催を心待ちにしていた会員の皆様には大変申し訳ございませんが、ご理解をお願いいたします。なお、今回発表予定の講演内容は次回以降発表していただいで差し支えございません。

日本気象学会 2020年度春季大会

会期：2020年5月19日（火）～5月23日（土）

会場：カルッツかわさき

〒210-0011 神奈川県川崎市川崎区富士見 1-1-4

TEL: 044-222-5211

<http://culttz.city.kawasaki.jp/>

大会実行委員会担当機関：国立研究開発法人 海洋研究開発機構，防衛大学校，横浜国立大学

大会委員長：米山 邦夫（海洋研究開発機構）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（カルッツかわさき ホール受付）

TEL: 未定 *確定後大会ページ (<https://www.metsoc.jp/meetings/2020s>) にて公開予定

交通の案内：

電車：JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩15分

バス：川崎駅東口バスターミナルより乗車5分「教育文化会館前」

・川崎市営バス(系統番号：川04・川05・川07・川10・川13・川15)

・臨港バス(系統番号：川02・川03)

交通アクセス



電車：JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩15分

バス：川崎駅東口バスターミナルより乗車5分「教育文化会館前」

・川崎市営バス

(系統番号：川04・川05・川07・川10・川13・川15)

・臨港バス

(系統番号：川02・川03)

※主なバス乗り場：⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮

周辺MAP



【駐車場・駐輪場のご案内】

地下駐車場／一般車・高さ制限2.1m

一般用駐車場……………60台

身障者用駐車場……………4台

屋外(来館者用)

自動二輪駐車場……………18台

自転車駐輪場……………351台

駐車場は数に限りがありますので、ご来館の際は、公共交通機関などをご利用ください。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演 1 件あたりの持ち時間は 14 分 (講演 11 分・質疑 3 分) です。
- ・ 専門分科会の発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- ・ 講演には PC プロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクター、VGA ケーブルおよび HDMI-VGA 変換アダプタを準備します。VGA (ミニ D-sub15 ピン)、あるいは HDMI (フルサイズ) コネクタを装備した PC が使用できます。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、

座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、高さ 150 cm × 幅 180 cm 程度となっています。
- ・ ポスターの掲示には画紙のみが使用できます (マグネットは不可)。画紙は会場に用意されています。
- ・ ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。会場の都合上時間厳守をお願いします。
 - ✓ 第 1 日の発表者は 5 月 19 日 12:30~17:30
 - ✓ 第 2 日の発表者は 5 月 20 日 09:00~12:30
 - ✓ 第 3 日の発表者は 5 月 21 日 09:00~14:30
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

保育施設の紹介について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の紹介と、施設利用費用の一部補助を行います。紹介する保育施設は下記の通りです。

保育施設 「キラキラルーム川崎園」

住所 〒210-0023 神奈川県川崎市川崎区小川町12-11

TEL: 044-211-4221 FAX: 044-223-7143

<http://www.kirakiraroom.ed.jp/>

※生後 3 ヶ月~6 歳児

また、学会からの保育補助は下記の保育支援ガイドラインに則ります。

https://www.metsoc.jp/jinzai/files/childcare_support_guideline.pdf

上記は情報提供のみであり、保育施設への申込は直接利用者個人で行ってください。補助の申請は事前に気象学会事務局・下記担当者へ 5 月 12 日 (火) までにご連絡下さい。

他の施設を利用される場合にも同様の方法で補助を行います。保育施設の利用を検討されている方は、お気軽に担当者にお問い合わせください。

連絡先 気象学会事務局

E-mail: chief@metsoc.jp

TEL: 03-3216-4403

大会実行委員会からのお知らせ

(現地開催の中止について)

春季大会を心待ちにされていた皆様には大変申し訳ありません。私たちひとりひとりの行動改革によって新型コロナウイルス感染症を早期に終息させることができ、いずれかの大会会場にて皆様とお会いできる日が訪れることを 2020 年度春季大会実行委員会一同心より待ち望んでおります。

(大会参加票・領収証等の事前送付について)

講演申込者 (投稿料をお支払い頂いた方) には、大会実行委員会事務局より大会参加票と投稿料の領収証を送付します。

これら郵便物の発送は 5 月 8 日頃を予定しています。

総会

日時：大会第2日（5月20日）13:30～15:20

場所：カルッツかわさき
A会場 ホール（1F席）

議事次第

1. 開会
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 2020年度日本気象学会賞授与
5. 2020年度藤原賞授与
6. 2020年度岸保・立平賞授与
7. 2019年気象集誌論文賞及びSOLA論文賞授与報告

8. 議事

- (1) 2019年度事業報告
- (2) 2019年度決算報告
- (3) 2019年度監査報告
- (4) 第41期役員を選任について

9. 報告

- (1) 2020年度事業計画
- (2) 2020年度収支予算
- (3) その他

10. 議事録署名人の指名

11. 議長解任

12. 閉会

専門分科会の概要紹介

“IoT”の発展は気象学にイノベーションをもたらすのか？

日時：2020年5月21日（木）（大会第3日）9:30～11:30

場所：C会場

趣旨：今日では“IoT”（Internet of Things）という言葉が頻繁に使われるようになった。ここ数年の通信・センシング技術の発展は著しく、スマートフォンやそれにつながるウェアラブルデバイスの利用により、ビックデータかつ高品質な気象情報の蓄積が進んでいる。さらには、日常生活における時空間で詳細な気象データも取得可能となってきた。このように、生活空間における様々な環境情報がリアルタイムで取得できることは、気象学分野においてもイノベーションをもたらす可能性を秘めている。この研究ステージを一つ上に進めるためには、“IoT”に関する新技術を気象学分野に取り込み、有効に活用しなければならない。そこで本専門分科会において、気象学のなかでの広義の意味で“IoT”に関連する取り組みについて講演を募り、気象観測から最新のモデリング手法までの理解を深め、現状と今後の展望について語る場にした。

世話人：重田祥範（公立鳥取環境大学 環境学部）、吉田聡（京都大学 防災研究所 白浜海象観測所）、野津雅人（東京都立大学 都市環境学部）、渡来靖（立正大学 地球環境科学部）、大橋唯太（岡山理科大学 生物地球学部）

高性能スーパーコンピュータを用いた最新の大気科学の進展と展望

日時：2020年5月21日（木）（大会第3日）14:30～18:00

場所：A会場

趣旨：気象学を含む多くの分野で、「京」コンピュータ等の高性能スーパーコンピュータを用いてシミュレーション研究が行われている。高性能スーパーコ

ンピュータの登場は、より高解像度の再現・予測実験、より多メンバーのアンサンブル予測、観測ビッグデータを用いたデータ同化などを通じて、大気科学を大きく進展させてきた。「京」の後継機であるスーパーコンピュータ「富岳」も再来年度から稼働が予定されており、これに向けた研究もスタートしている。本専門分科会「高性能スーパーコンピュータを用いた最新の大気科学の進展と展望」では、気象・気候・環境科学等の最先端のシミュレーション研究をテーマとし、高性能スーパーコンピュータを用いたこれまでの成果や次に取り組みたい研究、将来のモデル開発計画（夢を含む）、などを幅広く議論することを通じて気象・気候シミュレーション研究の将来像を学会員と共有したい。

世話人：高橋桂子（海洋研究開発機構）、佐藤正樹（東京大学）、滝川雅之（海洋研究開発機構）、瀬古弘（気象研究所）、小玉知央（海洋研究開発機構）、川畑拓矢（気象研究所）、宮川知己（東京大学）、中野満寿男（海洋研究開発機構）、八代尚（環境研究所）

気象分野における途上国支援・協力の現状と今後の展望

日時：2020年5月21日（木）（大会第3日）14:30～18:00

場所：C会場

趣旨：国際協力機構（JICA）はアジアを中心として気象分野の技術協力プロジェクトや無償資金協力によって途上国支援を進めており、対象を大洋州やアフリカに広げている。気象庁は途上国気象局を対象とするJICA 集団研修を1973年から、また世界気象機関（WMO）の枠組みで気候情報、熱帯低気圧、気象観測・予報の研修やワークショップを開催している。大学や研究機関は科学技術振興機構（JST）、日本学術振興会（JSPS）、地球規模課題対応国際科学技術プログラム（SATREPS）などによる研究協力プログラム、留学

生の受入れ等を通じて途上国の研究・教育の発展に貢献している。

本専門分科会では招待講演も含め、これまで各分野が個別に実施してきた途上国への支援・協力を振り返り、現状の問題点や課題を整理し、より効果的な支援・協力のあり方、機関の間の情報交換や人的交流に

よる連携強化の道を模索する。
世話人：赤津邦夫(国際協力機構)、石原正仁(気象解析システム)、菅野能明(気象庁)、余田成男(京都大学)

公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は事前申込みが必要です。詳しくは公開気象講演会参加登録のページ(<http://www.metsoc.jp/?p=5906>)をご覧ください。参加は無料です。

日時：2020年5月22日(金) (大会第4日)
14:00～17:00

場所：カルッツかわさき ホール

テーマ：命を守る身近な気象情報

主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会

後援：一般社団法人日本気象予報士会

趣旨：日本気象学会 2020 年度春季大会の開催に合わせて、一般市民の方々に気象に関する最新の研究成果や関心の深い事柄について解説することを目的として公開気象講演会を開催します。

今回のテーマは「命を守る身近な気象情報」です。

2019 年は令和元年房総半島台風、令和元年東日本台風と相次いで台風が上陸し、記録的な大雨による河川の氾濫や暴風等による甚大な被害をもたらしました。また、近年では、夏季に熱中症が発生しやすい気象状況になる事が多くなっています。特に今年は、夏季に東京でオリンピックやパラリンピックが開催される予定になっており、選手だけでなく、観客の熱中症対策も重要な課題です。

今回の講演会では、このような様々な気象災害から命を守るために、身近な気象情報を有効活用する目的から、各分野の専門家からお話いただくこと

にしました。奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

プログラム：

14:00-14:10 開会挨拶・趣旨説明

14:10-14:40 「風水害から身を守るために」高橋 賢一(気象庁)

14:40-15:10 「健康と気象」小越 久美(日本気象協会)

休憩

15:20-15:50 「洪水と土砂災害」(仮題)大石 哲(神戸大学)

15:50-16:20 「熱中症予防と川崎市の気候変動適応策」(川崎市)

16:20-16:50 「防災気象情報の伝え方」南 利幸(NHK 気象キャスター)

16:50-17:00 閉会挨拶

※講演タイトル及び講師は変更となる場合があります。

問い合わせ先：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会

TEL：03-3216-4403

Email：msj-ed_2020@metsoc.jp

ジュニアセッションのお知らせ

新型コロナウイルス感染症の発生状況を踏まえ、第6回日本気象学会ジュニアセッション(2020年)の開催場所と方法などについては検討中です。最新情報は下記ジュニアセッションのホームページをご確認ください。

https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/junior_session/junior_session_2020/intro

※下記の趣旨のため、多くの学会会員の皆様にご参加いただき、質疑やコメントをくださいますよう、宜しく願いいたします。

※ジュニアセッション発表者・見学者の参加は無料です。

日時：2020年5月23日(土) (大会第5日) 11:00～12:00

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）
主催：公益社団法人日本気象学会 教育と普及委員会
会・講演企画委員会
趣旨：大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待し、日本気象学会 2020 年度春季大会の開催に合わせて、高校・中学生世代を対象に「ジュニアセッション」を開催します。生徒たちが自ら行った気象や大気に関する調査・研究の成果を、専門家の前で発表体験し、意見交換することによって調査・研究を深めてもらうことを主な目的としています。多くの学会会員の皆様にご参加いただき、質疑やコメントをくださいますよう、宜しくお願いいたします。
発表者：高等学校、高等専門学校生(1~3学年)、中学校

の生徒（新卒者含む）個人またはグループ。
発表形態：ポスターセッション形式。具体的な方法については検討中です。ジュニアセッションのホームページをご確認ください。

発表内容：気象・気候や大気についての生徒による調査・研究成果。詳細は日本気象学会ホームページ (https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/junior_session/junior_session_2020/intro) をご覧下さい。

問い合わせ先：公益社団法人日本気象学会
教育と普及委員会 ジュニアセッション担当
E-mail：msj-ed_2020@metsoc.jp（ジュニアセッション担当）
Tel：03-3216-4403 Fax：03-3216-4401（学会事務局）

研究会のお知らせ

大会期間中に研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

地球観測衛星研究連絡会

日時：2020年5月19日（火）（大会第1日）17:45~19:45

場所：C会場 大会議室1・2（1F）

テーマ：次期ひまわり衛星搭載イメージャーについて

内容：ひまわり衛星は日本を含むアジア・オセアニア・太平洋領域における地球観測を担当し、同地域の天気予報や環境観測等に役立てられている。2014年に打ち上げられた現在のひまわり8号・9号の設計寿命は2機あわせて15年であるから、2028年に次期ひまわり衛星を打ち上げる必要がある。衛星とセンサーの製作に5年間を要することを勘案すると2023年には製造を開始する必要がある。2022年にはその仕様を確定する必要がある。ひまわり衛星はその役割が徐々に増大していることから、主力センサーであるイメージャーのバンド仕様について、特に気象学会に関わりの深い大気観測の観点から議論を行う機会を設けたい。そこで本連絡会では、次期ひまわり衛星搭載イメージャーのバンド仕様について深く議論する会とする。

話題提供者（予定）：

気象庁観測部 別所康太郎

「後継衛星計画の現在の検討状況」

千葉大学 CEReS 樋口篤志

「ひまわりがとらえた特徴的な事例と地球環境研究への応用」

気象庁気象衛星センター 石田春磨

「ひまわりの波長構成と雲識別アルゴリズム」

宇宙航空研究開発機構 橋本真喜子

「ひまわりとエアロゾル衛星観測～どのような観測が必要か?～」

情報通信研究機構 村田健史

「先進的情報通信技術からのひまわり衛星データへのアプローチ」

世話人：中島孝（東海大）、樋口篤志（千葉大）、別所康太郎（気象庁）

連絡先：中島孝

東京都港区高輪2-3-23 東海大学情報技術センター
TEL: 03-3446-5500

E-mail: nkjm@yoyogi.ycc.u-tokai.ac.jp

雲・降水研究会

日時：2020年5月19日（火）（大会第1日）18:00~20:00

場所：D会場 大会議室3・4（1F）

テーマ：雷活動と雲・降水

内容：雷活動は、雲内部の雲・降水粒子の振る舞いに関連して生じることから、雲微物理学的見地から多くの研究がなされてきました。近年、雷放電観測・気球観測・偏波レーダー観測等の他、雲内部の電荷分布を予測する数値モデルを用いた研究も進められ、新しい展開を見せています。

本研究会では、雷放電観測・偏波レーダー観測に基づく解析、数値モデルを用いた解析に取り組んでおられる研究者をお招きして話題提供していただきます。

連絡先：橋本明弘（気象研究所）

E-mail: ahashimo@mri-jma.go.jp

第7回気象学史研究連絡会

日時：2020年5月21日（木）（大会第3日）18:20~20:20

場所：C会場 大会議室1・2（1F）

テーマ：「天気予報の自由化」25年—気象行政史の視点から

内容：「気象予報士」が誕生し、民間事業者に「一般向

け予報」が許可されてから四半世紀が経過した。この間、予報業務許可事業者数は大きく拡大し、気象予報士は1万人を越え活動の舞台をさらに広げることが期待されている。この発展の契機となったとみえる、いわゆる「天気予報の自由化」の動きを、150年にわたる日本の近代国家事業としての気象行政史の視点から振り返り、今後の気象業務のさらなる発展の方向を考えるよすがとしたい。

明治初年の創生からの近代日本気象行政と社会との関係の変遷を解明する先駆的研究をまとめられ、『日本気象行政史の研究：天気予報における官僚制と社会』(2019)を上梓された若林悠氏、「自由化」当時、気象庁の気象行政の最前線で予報許可に関する業務にあられた横手嘉二氏、お二方にそれぞれの立場からご講演をいただき、社会の中における気象行政の役割を再考し、議論を深めたい。

本会合は気象学史研究に関心を持つ、より多くの方の間の情報・意見交換をうながすため、学会員以外の方にも広く参加を呼びかけて開催する。

プログラム

「天気予報の自由化」の史的展開—行政学の観点から—
— 若林 悠 (東京大学)

「天気予報の自由化」について
横手嘉二 (元気象庁)

お問い合わせ先

山本 哲 (気象庁観測部)

TEL 03-3212-8341 (代表)

メールでのお問い合わせは気象学史研究連絡会ウェブサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/>

極域寒冷域研究連絡会

日時：2020年5月21日(木) (大会第3日) 18:15~20:15

場所：B会場 中会議室1・2・3 (1F)

テーマ：南極・北極のリンケージを考える

内容：南極と北極は遠く離れており、それぞれの地域で発現する大気循環変動の直接的な関りについての議論はこれまで多くない。極域は温暖化が増幅する地域であるが、それに関わるアイス-アルベドフィードバックや潜熱放出と一体となった気温減率フィードバックはそれぞれの極で独立に働く。また、地上気温の昇温の速さにおいて北極が南極より速い、いわゆる両極の温暖化の非対称性は、両極・両半球の海陸分布の非対称性に起因する独立した現象として理解できる。例えば、海洋循環による極域からの熱の抜き取りが南極の方が大きいことや、海氷が広がる北極に対して南極には平均2500mに達する南極氷床があることによる効果がそれである。

最近、環状モードの変動に関して両極間に相関が高い季節が見いだされている。相関係数の季節変化は両極の直接的な結び付きの強さの変化を表しているのだろうか？また、突然昇温の解析に基づいて両半球の関りが議論されている。両極に同時に影響を与えている起源があるのだろうか？そこで今回は両極を同時にコントロールする機能について議論して

みたい。基調講演として、三重大学の立花氏、及び東京大学の安井氏に話題提供いただく。

当日までの間にさらに講演依頼を広げつつ、講演希望者を募ります。興味のある方は以下に問い合わせてください。講演者の更新については当連絡会のホームページ (http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl_index) にてアナウンスします。

問い合わせ先：平沢尚彦 (極地研究所、

hira.n@nipr.ac.jp)

講演内容：

1. 基調講演：Interhemispheric synchronization between the AO and the AAO 立花義裕 (三重大学)
2. 基調講演：南北両半球間結合における中層大気でのロスビー波および重力波発生役割 安井良輔 (東京大学)

※. 当日までに1,2件の追加を予定

第53回メソ気象研究会・気象災害委員会合同研究会

日時：2020年5月23日(土) (大会第5日) 13:30~17:15

場所：気象庁講堂 (東京都千代田区大手町1-3-4)

テーマ：「甚大な災害をもたらした2019年台風第15号と第19号の実態に迫る」

コンピーナー：加藤輝之 (気象大), 益子 渉 (気象研), 柳瀬 亘 (気象研)

内容：2019年9月9日に千葉市付近に上陸した台風第15号は、ベストトラックデータとして上陸時の台風の強さの記録が始まった1991年以降において最も強い勢力で関東に上陸した台風となり、関東地方を中心に多くの地点で観測史上1位の最大風速・最大瞬間風速を記録しました。これにより、房総半島を中心に7万戸以上の住家被害や大規模停電が発生しました。また、台風第19号は10月12日に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸し、静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、総雨量は神奈川県箱根町で1000ミリに達しました。この東日本の広範囲における記録的な大雨により、河川の氾濫が相次いだほか、土砂災害や浸水害が発生し、死者・行方不明者は100名を超えました。

気象庁は、顕著な災害をもたらしたこれらの台風について、後世に経験や教訓を伝承することなどを目的に、台風第15号については「令和元年房総半島台風」、台風第19号については「令和元年東日本台風」と名称を定めました。台風には名称を付けるのは1977年9月の「沖永良部台風」以来となります。

今回は、メソ気象研究会と気象災害委員会の合同研究会として、台風第15号に伴う暴風と台風第19号に伴う大雨を取り上げ、台風自体の構造、暴風や大雨の発生要因、洪水予測について最新の知見を講演していただくことにしました。

プログラム：

13:30-13:40 開会挨拶・趣旨説明

13:40-14:05「台風第15号の発生・発達環境場について」
筆保弘徳（横浜国立大）

14:05-14:30「台風第15号の強度・構造変化について」
宮本佳明（慶應義塾大）

14:30-14:55「台風第15号に伴う暴風・突風の特徴」
益子 涉（気象研）

休憩

15:10-15:35「台風第19号による豪雨発生の環境条件：
湿度条件の重要性」竹見哲也（京大）

15:35-16:00「Xバンド偏波レーダを用いた台風第19号に
伴う大雨の解析」三隅良平（防災科研）

16:00-16:25「台風第19号による大雨の環境場と地形の
影響」荒木健太郎（気象研）

16:25-16:50「台風第19号の非対称な降水分布：中緯度
プロセスの影響」柳瀬 亘（気象研）

16:50-17:15「リアルタイム陸面・河川モニタリングシ
ステムを用いた洪水予測」日比野研志（東大）

世話人：加藤輝之（気象大），坪木和久（名大宇地研），
小倉義光（東大大気海洋研）

問い合わせ先：加藤輝之（気象大）

E-mail：teruyuki_kato@met.kishou.go.jp

注意事項：講堂でのご飲食はご遠慮ください。トイレ
は1Fをご利用ください（名札を提示されるとゲート
を通してもらえます）。

リクルートブースの設置について

日本気象学会では、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者のキャリア形成をサポートするため、企業の就職担当者と就職を希望する参加者が直接情報交換する場として、大会会場内にリクルートブースを設置する予定です。参加企業名およびブース開設期間など詳細については大会プログラムとともにお知らせする予定です。なお、ブース訪問希望者の予約等の手続きは不要です。

2020 年度秋季大会の予告

2020 年度秋季大会は、2020 年 10 月 28 日（水）～10 月 30 日（金）に京都テルサで開催される予定です。大会告示は「天気」5 月号に掲載予定です。なお、秋季大会の講演申し込み締め切りは 2020 年 7 月頃となる予定です。